

令和6年度第2回釧路市まち・ひと・しごと創生推進会議 議事要旨

日時: 令和6年11月11日(月)15時00分～16時40分

場所: 釧路市役所本庁舎2階第2委員会室

1 開会

- ・「釧路市まち・ひと・しごと創生推進会議 設置要綱」第6条第2項の規定により、委員 11 名中9名出席につき、過半数の委員の出席があったため、当会議成立を確認。

2 秋里副市長あいさつ

3 議事 <以下、質疑応答【◎…議長 ○…委員 ●…オブザーバー ■…釧路市】>

(1)第3期釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略たたき台について

- ・事務局より「資料1 第3期 釧路市まち・ひと・しごと 創生総合戦略の体系図について」、「資料2 今後のスケジュールについて」、「資料3 第3期 釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略 たたき台」をもとに説明

※主な意見

○質の高い雇用は色々考える部分である。釧路の雇用の大半は未だに労働型だが、加えて、釧路の資源をどのように高付加価値化していくかを考える人も必要である。質の高い雇用を KPI とどう結びつけるかが難しい。

■質の高い雇用に関する KPI の設定は、ご指摘の通り、これという KPI の設定が難しいところである。個別の KPI や事業というよりは、総合戦略全体をみて質の高い雇用を読み取れるように柔軟な対応をしていきたい。

◎質の高い雇用創出のために何をするのかという説明を、もう少し分かりやすく表現できれば望ましい。例えば、サテライトオフィスや移住を活用し、ハイスペックな人材を確保するとか。

○デジタル田園都市国家構想に向けてとうたいながら、デジタルに関する取り組みが見えづらい。デジタル人材をキーワードとして組み込まないのか。また、デジタルや DX にかかる民間の取り組みへの行政支援をもっと強化していけば、デジタルや DX がさらに浸透していくと思う。

■第2期総合戦略には関連事業を列挙していたが、第3期総合戦略は柔軟な対応を可能とするために関連事業を列挙しない整理にした。その影響で見えづらくはなっているが、各 KPI 等については裏側で紐づく事業を管理していく予定。デジタル部分については、現在、庁内でも検討中である。既に、地元企業の ICT 化に関する事業は産業部門でも行っているが、現時点では人材育成というよりはデジタルに関する情報を発信している段階。

○2030 年には理工系人材が 80 万人不足するという記事があり、大学の学部増設の動きがある。釧路にも高専があるが、このままだと人材が流失していくので、取り組みを進めていく必要がある。

■高等教育機関の取り組みに行政としても連携して対応していきたい。

令和6年度第2回釧路市まち・ひと・しごと創生推進会議 議事要旨

○福祉分野でも障がい者の雇用は重要視されてくると考えている。障がい者の就労支援について、総合戦略上で表現を残せないか。また、民生委員や町内会の担い手が不足している実態があり、ボランティアを担う人材確保も重要な観点だと思う。

■ご指摘の通り、行政としても、経済面だけでなく地域運営という意味で人材不足が問題になっていると認識している。

○総合戦略の KPI は市で進捗を図る必要があるため、市の事業を掲載することが妥当とは思いますが、UIJ ターンや女性求職者就労促進事業による就職者数の KPI の目標値があまりに低すぎる。同友会や商工会議所等でも簡易アンケートを実施する等の協力はできるので、行政だけに頼らずもっとまち全体で高い目標を掲げることができればと思う。

■KPI の達成状況を毎年報告するうえで、現実的な KPI を置かざるを得ない実態もある。数値目標などもっと高い目標にするのであれば良いかもしれない。

◎難しい問題である。可能であれば、KPI は KPI で現実的な数値を置きつつも、目標自体はもっと大きな観点で施策含め考えているということが、市民に対するメッセージとして伝われば望ましい。

○女性求職者数の KPI の目標値について、事業開始時から関わっている立場からすると確かに低すぎる。ただ、実態として毎年10人就職者を輩出できるような予算ではないので、そういった意味ではこの目標値も致し方ないとも思う。コロナ禍以降は参加人数をなかなか確保できておらず、今年度も7人程度しか受講者がいない。

■行政も、企業がどんな人材を求めているのかというニーズをもっと把握したうえで施策を行っていく必要があると考えている。

○子育てイベントに集まった女性の話を踏まえると、女性が子どもを産みたい、子育てしたいまちにするためには、遊びに行ける場所がたくさんあることや、釧路の人の良さを見える化していくことが必要だと思う。そうすることで、外から来た人含め、皆、釧路市に根付いてくれるのではないかな。スクール形式の事業よりもイベントを実施したほうが人はたくさん集まるので、そういう意味で市の予算を多くいただければ、デジタル人材も含め、もっと色々な人材育成・確保にかかる取り組みができると思う。

■行政の立場として、無限に予算をつけられるわけではないが、人材育成・確保に関する取り組みの重要性は理解しているので、人材育成・確保に携わっている皆様には現場の声を挙げていただきたいと思っている。

○女性が企業に入った後にステップアップするための支援ができていない中小企業へのフォローが必要だと思う。

■これまでそのような視点での就労支援対策をやってきてはいない。男性女性にかかわらず、偉くなりたくないからやめるといったケースも多いので、改善するための検討が必要である。

令和6年度第2回釧路市まち・ひと・しごと創生推進会議 議事要旨

○民間だと、障がい者雇用は雇用率を満たさない場合に国からのペナルティがある。公共が支援することで、釧路市全体の障がい者雇用率が上がり国からのペナルティも減るため、人材確保という意味でも市が視点を変えて取り組んでみてもよいのではないか。

■今後の取り組みの参考とさせていただきたい。ただ、総合戦略なので、人口減少や地方創生に資するか否かという視点が必要。

○町内会の継続がなかなか厳しいなかで、町内会に代わる地域コミュニティの在り方の模索やコミュニティのつながりの強化を支援してほしい。その中で、利用者に対するデジタルや DX にかかる支援も必要だと思う。

■非常に重要な観点である。地区会館を維持できない問題もあり、行政でも議論を始めている段階である。

○産業を伸ばすためには、地産地消の飲食店やスーパー、外部にものを売っていくことに重点を置き、製造業を強化していかなければならない。釧路市と他の市町村との連携が必要で、釧路市としてどこを目指していくのが重要と思う。

■産業について、現状の釧路市は農林水産業や製造業といったところがメインなので、外から稼がないといけないと考えている。一方で国は地方に対して、近隣の市町村と連携して取り組みを進めてほしいと言っているので、現時点で総合戦略という意味での連携はできていないが、今後は特に地方創生の産業部門での連携を具体的に考えていく必要がある。

○今回の総合戦略は、これまでの釧路市であったことを総花的にカバーした内容になっているので、今後人口減少がさらに加速したタイミングでは、選択と集中を迫られるのではないかと。

■ご指摘の通りである。石破政権が掲げる地方創生2.0の取り組みも見ながら進めていく必要がある。

●地方創生2.0の話もあったが、今回、国は新たに「新しい地方経済・生活環境創生本部」を設置している。ただ、11月8日の初会合では詳細な方針は出ず、年末までに新しい方針が出ると聞いている。報道では、新たな交付金の現行予算からの倍増や、買い物支援、公共交通等の生活に密着した支援がメニュー化されることが報じられている。

●北海道としても、第3期の「人口ビジョン」と「総合戦略素案」を策定している段階であり、今後パブリックコメント等も想定しているので積極的にご意見をいただければありがたい。さらに、地域の計画である地域戦略では釧路管内での公共交通や広域観光の取組も進めていこうとしており、様々な連携についてよろしくお願ひしたい。

4 閉会

(了)